

第3章 公園づくりのビジョン

1. 基本的な考え方
2. 地域ごとの公園づくりの考え方
3. 基本理念
4. 方針と施策
5. 未来の公園シーン

chapter

3

3 公園づくりのビジョン

1. 基本的な考え方

- ・千代田区の公園整備は、地域の歴史や特性を踏まえながら区民とともに行っていきます。
- ・多様なニーズに寄り添いながら利用者にとって魅力が高く、都市における機能を最大限に発揮した公園づくりを推進します。
- ・他人を尊重し思いやる心をもった規範意識のもと、柔軟な活用を目指します。

千代田区の公園は、土地利用が極めて高度になされている都心にあり、狭小でビルに囲まれている、江戸城外堀跡のような文化財の区域にある、などの特徴があります。これまでは、地域の特性を踏まえつつも、区民をはじめどなたでも利用できるという考えによる設計が主でした。その反面、「すべての方の要望を十分満たすことができない」ものになったとも言えます。

これからは、特定の利用者を対象とした具体的なニーズに応えることも満足度向上に繋がると考え、柔軟な活用方法について検討していきます。ボール遊び、花火の利用、火気使用などの禁止されていた行為を緩和するには、公園を利用する人自身がルールを守り、他人を尊重し思いやる心をもつ「規範意識」が大切です。また、新たな取組みとして、子どもの池や芝生広場への日除け設置などの酷暑対策や、インクルーシブ遊具の導入などを進めています。

整備にあたっては、錦華公園改修の際のオープンハウスや東郷元帥記念公園改修の際の検討協議会など、地域の利用者のご意見を反映する取組みを行ってきました。さらに、公園の維持管理においても、特に防犯や環境美化に重点を置き、地域と共に取組みを進めていくことが重要であると考えます。

こうした取組みを通じて、区民と手を携えて、公園がより魅力的な場所になることを目指します。

2. 地域ごとの公園づくりの考え方 地域の特徴を踏まえた公園づくりについて示します。



神保町地域

・面積が狭い公園が多い。
→錦華公園と西神田公園が地域の核。
複数公園での機能分担。

万世橋地域

・面積の広い公園が点在。
→活発な地域活用を促進。
公園ごとの特色をいかした機能分担。

飯田橋・富士見地域

神保町地域

万世橋地域

和泉橋地域

和泉橋地域

・500㎡未満の公園が多い。
→和泉公園が地域の核。
複数公園での機能分担。
隣接区との連携。

神田公園地域

神田公園地域

・2,500㎡程度の公園が3つある。
→柔軟な公園利用。
新しいルールづくり。

麹町・番町地域

大手町・丸の内・有楽町・永田町地域

・公園が少ない。
・公開空地などが多い。
→民間企業との連携。
道路の公園的利用。

大手町・丸の内・有楽町・永田町地域

麹町・番町地域

飯田橋・富士見地域

・5,000㎡以上の公園が4つある。
・誘致圏外が多い。
→1つの公園で機能充実。
民間企業との連携。

マーク凡例

凡例	
区立公園	
【緑被区分】	
樹木被覆地	
草地	
屋上緑地(樹木)	
屋上緑地(草地)	
裸地	
水面	
	5,000㎡以上
	2,500~5,000㎡
	1,000~2,500㎡
	500~1,000㎡
	500㎡未満

※マップ情報は令和7年4月時点のものです。

3. 基本理念

本方針における基本理念を以下に掲げます。

千代田の歴史を継承し 次世代を育む 居心地よいコモンスペースを目指して

コラム コモンスペースとは・・・

「コモン」という言葉は、共用や共同という意味を持っています。この言葉を使って「コモンスペース」と言うと、集合住宅の中庭のような、「身近な共有空間」を指します。

利用者がルールを守って、リラックスできるようなゆとりある空間の確保や景観の整備、コミュニティの形成を促進する環境づくりを目指します。



4. 方針と施策

「基本理念」を目指して、「4つの方針」、「15の施策」を立案しました。
 以下のとおり、視点と方針および施策の関係を整理します。



方針1：区民のニーズに寄り添った公園づくり

凡例 ■ハード面(整備) ●ソフト面(マネジメント)

施策1-1 みんなでつくる公園

- 子どもや保護者をはじめとした地域の意見を取り入れ、子育て・コミュニティの核となる公園づくり
- 「公園づくり」に関わる機会を増やし、公園への愛着を醸成



施策1-3 公園でできることを増やす

- インクルーシブ遊具の導入や、みんなが遊べる公園整備の推進
- 特徴的な遊具で遊びのバリエーションを拡充
- ボール遊び、スケボーなどができる場所を拡充
- 水や緑、動植物とふれあう場の整備
- 花火などの先駆的な取組みの拡充



施策1-2 公園の基本的なサービスの向上

- ベンチなどの居心地よい休憩スペースの拡充
- 樹木や日除けなどによる日陰の創出
- 災害対策機能の拡充
- 快適なトイレ環境の整備



施策1-4 各公園で機能を分ける

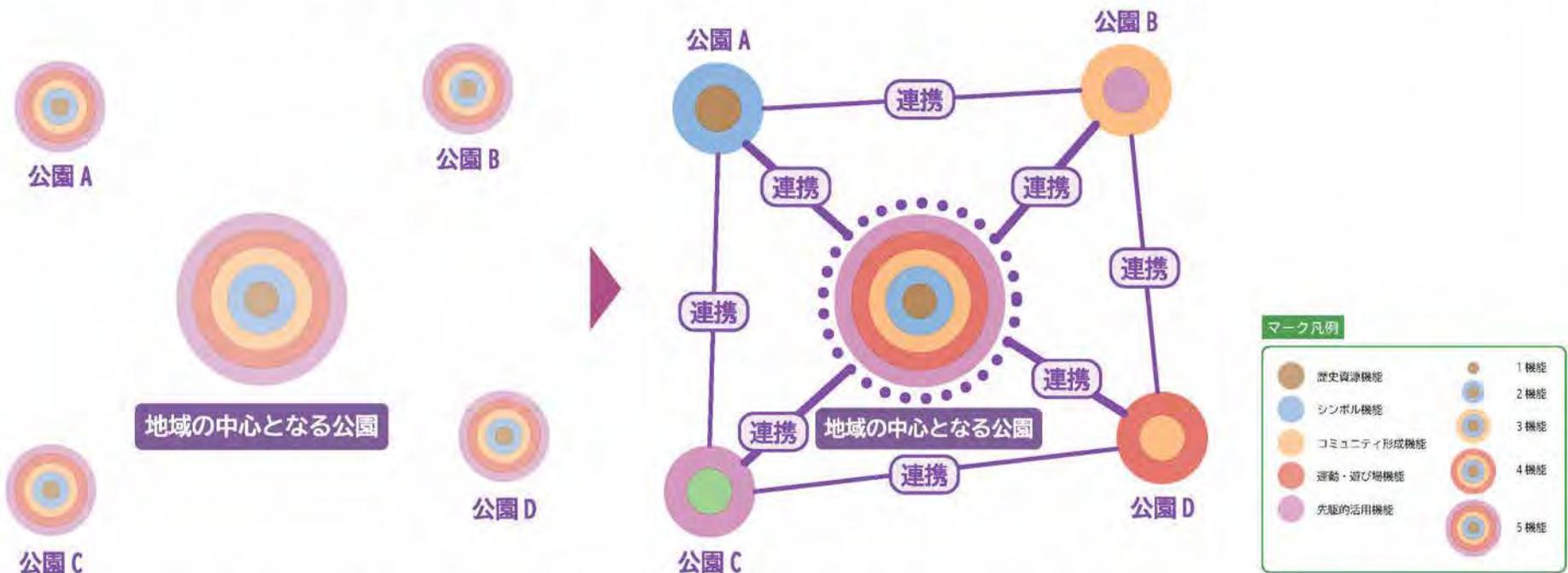
- 公園ごとの特色をいかし、機能を分担



公園の機能分担イメージ

コラム 各公園で機能を分けるとは・・・

千代田区は、規模が小さい公園が多いため、方針1の施策1-4で掲げる「各公園で機能を分ける」考え方が重要となります。複数の公園で機能を分担することで、地域として様々な公園機能の確保を目指します。



規模の小さな公園に複数の機能を持たせることは困難です。

特定のニーズに寄り添うため、公園ごとに機能を特化し、複数の公園で分担します。これにより、目的に応じた使い分けができるなど、公園価値の向上が期待できます。

方針2：区の特徴をいかした公園づくり

凡例

■ハード面(整備)

●ソフト面(マネジメント)

施策2-1

地域の歴史をいかし愛着を感じる場所

- 地域の歴史をいかした特色ある整備
- 良好な景観の保全や歴史の継承
- 地域の歴史を感じるサインや音声ガイドの整備



施策2-3

時間帯・場所ごとに楽しめる公園

- 昼・夜など時間に応じて用途を分け、多様な世代が思い思いに楽しめる空間づくり



施策2-2

緑をいかしたうらおいある公園づくり

- グリーンインフラなど、自然環境が持つ機能を活用
- 自然の豊かさにふれることができ、ビオトープの形成など生物多様性に配慮した公園づくり
- 都市の公園であっても、十分な緑被地を確保し、緑のネットワークに寄与
- 公園内や周辺にドライ型ミストなどを設置し、クールスポットを創出



コラム インクルーシブ遊具とは・・・

従来の公園では、遊びの機会を得ることが難しい子どもがいますが、インクルーシブ遊具は、誰も排除しない、すべての子どもが使える遊具です。子ども達が多様な遊びを自らを選択して経験することで、人や社会との繋がりを学ぶ機会となります。

インクルーシブ遊具には、車いすでも登れるスロープつき複合遊具や互いに回したり回してもらったりして楽しめる回転遊具、身体を支える力が弱い子どもも楽しめる皿型ブランコやハーネス付きブランコ、四肢が不自由でも視覚・聴覚・触覚で楽しむことができるものがあります。

「錦華公園」にインクルーシブ遊具を導入しました。



車いすのまま「通話遊び」ができる遊具



誰でも遊びやすい皿型ブランコ



車いすのまま遊べる遊具

方針3：子育て世帯・高齢者・障がい者が利用しやすい公園づくり

凡例

■ハード面(整備)

●ソフト面(マネジメント)

施策3-1 利用しやすい空間づくり

- 安全で利用したくなる「インクルーシブ」な公園づくり
- 公園に入りたくなるエントランス
- バリアフリーに配慮した歩きやすい園路づくり
- 緑を満喫できる居心地よい空間づくり



施策3-3 道路空間の公園的な活用

- 憩いの場や親水空間などの創出に向けた道路の活用



施策3-2 柔軟なルールづくり

- 花火利用など柔軟な運用とルールづくり
- 利活用団体のイベント開催などに対する柔軟なルールの適用



施策3-4 デジタル技術を活用する

- デジタル技術などを活用して防犯性を高める安全・安心な公園づくり
- 情報の見える化(公園の歴史・各種データなど)



コラム 公園での花火利用の試み・・・（令和5年夏季より）



東郷元帥記念公園での実施風景

【参加者の主なご意見】

賑やかなところで花火をするのは初めてで楽しい！
夏の良い思い出ができた。

花火のできる日数と公園をもっと増やして欲しい。

ルールの周知や花火をしてはいけない場所をわかりやすく明示することが必要。

近隣への煙が心配なので、ルールを守りたいと思う。

アナウンスの強化が必要。小学校のPTAとも連携できると思う。



方針4：様々な主体による公園づくり

凡例

■ハード面(整備)

●ソフト面(マネジメント)

施策4-1

みんなで育む公園

- 地域活動への参画しやすい仕組みづくり
- 地域貢献活動などへの支援



施策4-2

公園と隣接施設の一体的な利活用

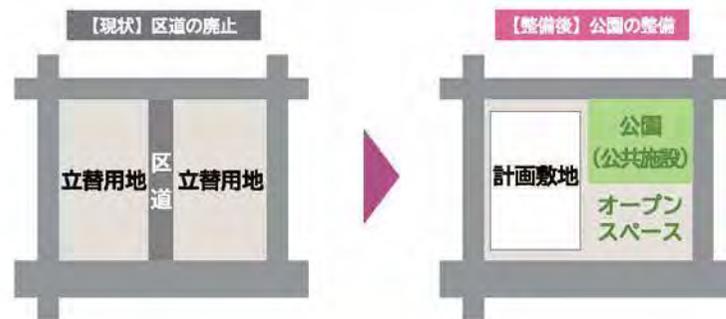
- 公園に隣接する施設と連携したイベントの推進
- 公開空地などを公園的空間として利活用



施策4-3

開発との連携

- 公園に隣接する施設や道路との一体的な再整備



施策4-4

民間企業のノウハウの活用

- 指定管理者・公募設置管理制度(Park-PFI)の活用などによる利便性や質の向上
- 整備・運営への民間活力の導入を検討
- 事業者やエリアマネジメント団体などとの協働



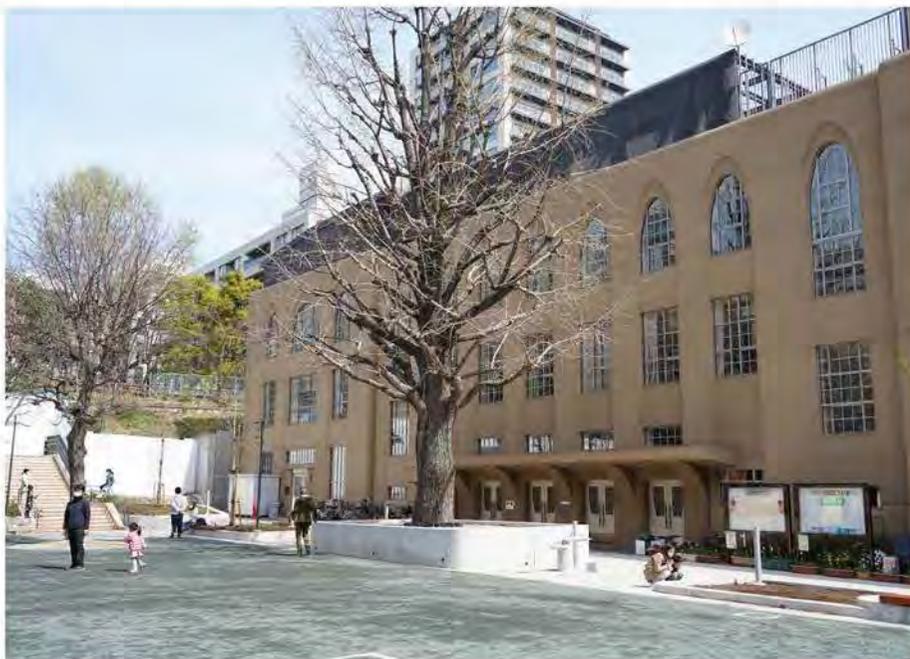
コラム 隣接施設との連携

千代田区の公園には、震災復興小学校などが隣接しています。

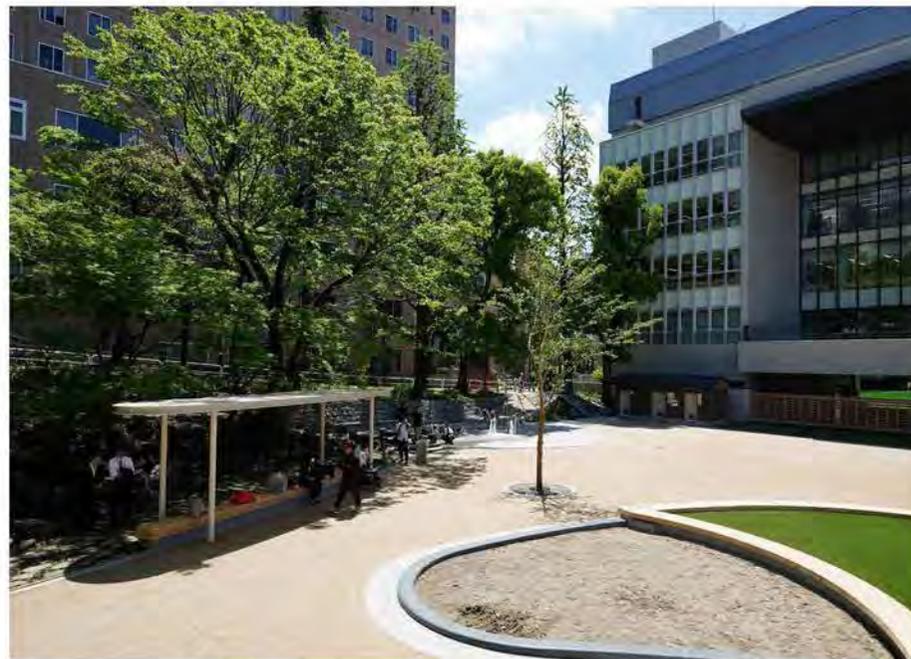
東郷元帥記念公園や錦華公園の改修工事では、隣接する小学校とのデザイン性の調和や公園から見える建物を意識した設計など歴史的経緯を踏まえた整備を行っています。

和泉公園は多様な機能を担い地域に愛される公園へと、隣接している和泉小学校と一体的にリニューアルしていきます。

今後、公園のリニューアルにあたっては、周辺施設の整備とのシナジー効果などを見ながら検討していきます。



東郷元帥記念公園と九段小学校(右奥建物)



錦華公園とお茶の水小学校(右奥建物)

隣接する小学校と一体的にデザインされた公園

5. 未来の公園シーン

基本理念、4つの方針および15の施策を実施することで、以下に示す公園シーンを実現していきます。

遊ぶ



スケートパーク



ボルダリング



ボール遊び



滑り台



インクルーシブデザイン



ボール遊び



花火



ふわふわドーム



ボール遊び



水遊び



ダンス



かけっこ

イベント



BBQ



マルシェ



焼き芋



バザー



夏祭り



交通イベント



凧揚げ



御神輿



クリスマスマーケット



イルミネーション



雪遊び

47

自然とふれあう

生き物鑑賞

気分転換

虫取り

昆虫観察

花遊び

クローバー探し

コミュニティガーデン

学び

課外学習

歴史学習

憩う

お喋り

ベンチ

木陰

ピクニック

リラックス

テーブルでお茶

キッチンカー

テーブル

お花見

出会う

読書

運動

ヨガ 体操

ランニング

ウォーキング

散歩

ほか

コワーキング

ドッグラン

HOW TO PROCEED WITH PARK DEVELOPMENT





第4章 公園づくりの進め方

1. 計画の実現に向けた手法について
2. これまでの取組み(ハード面、ソフト面)
3. 今後の取組み(ハード面、ソフト面)
4. 他事業・他区との連携
5. プロセスと進行管理
6. 公園施策の深化に向けて

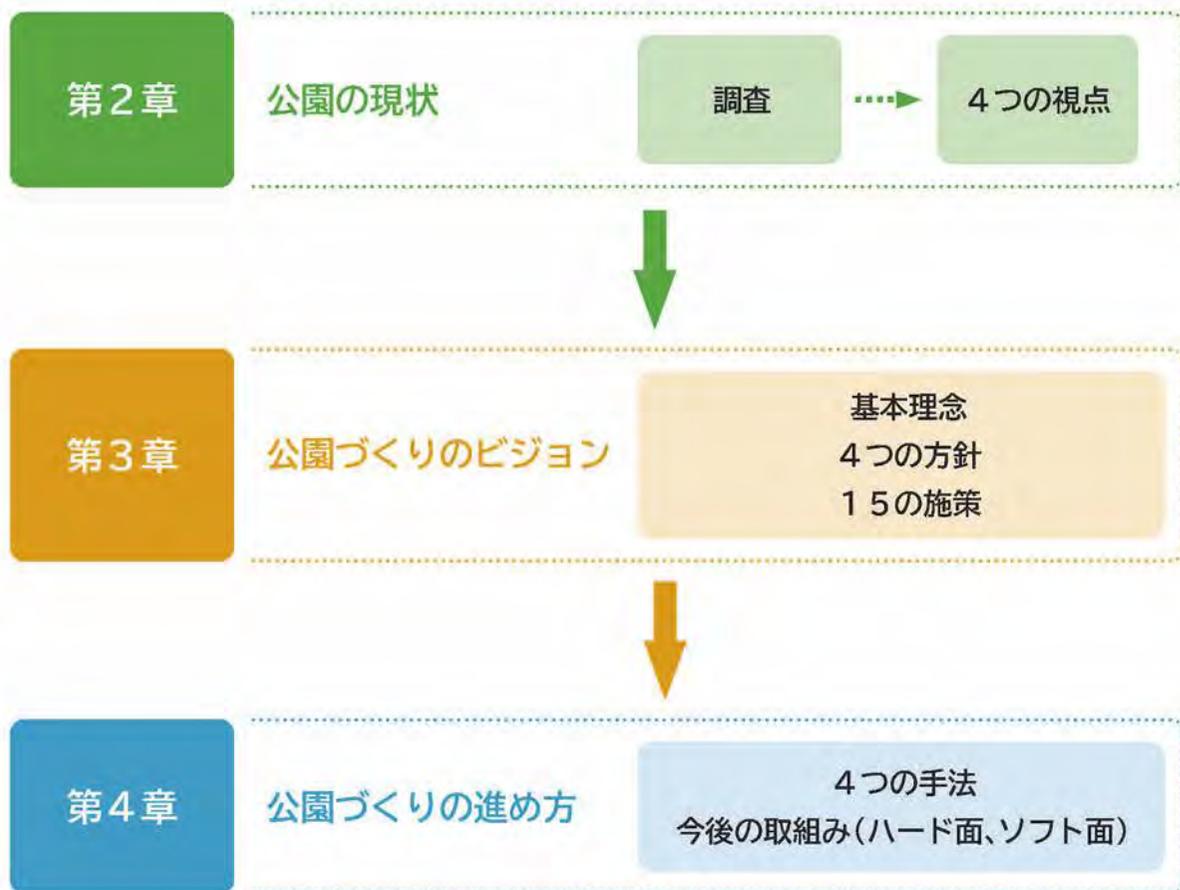
chapter

4

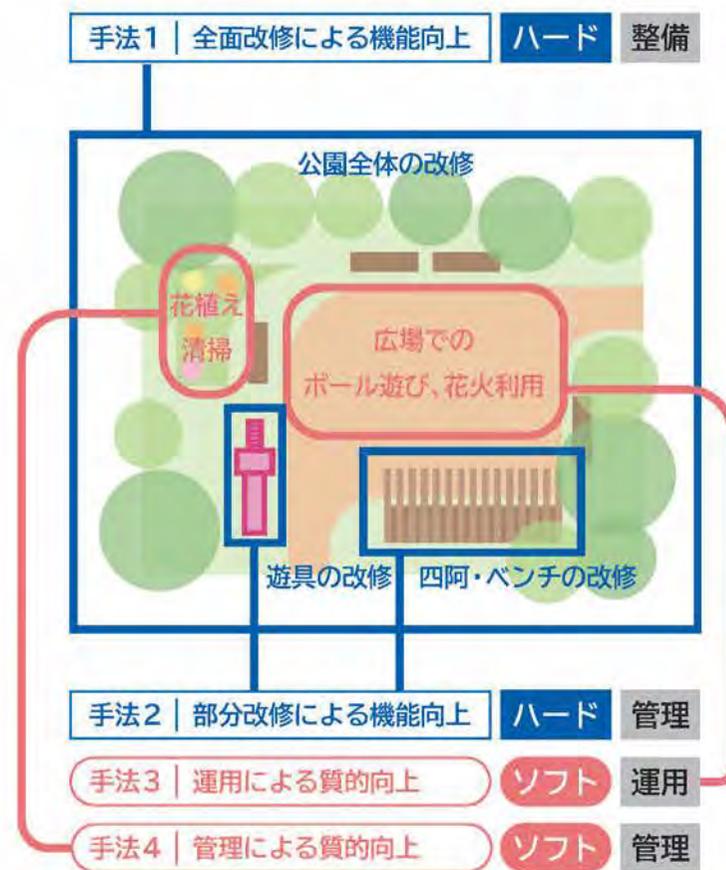
4 公園づくりの進め方

1. 計画の実現に向けた手法について

第2章では現状を分析し、公園をより良くするための4つの視点を挙げました。
 それを受けて、第3章では基本理念および4つの方針と15の施策を立案しました。
 第4章では、基本理念を達成するために、これからの公園づくりをどう行っていくべきか、より具体的に示します。



方針に基づき、今後の公園整備や管理運用を、4つの手法で進めていきます。



公園整備や管理運用の手法イメージ

ハード

整備

手法1 | 全面改修による機能向上

整備(ハード)とは、対象公園を全面改修し、公園機能を向上させる手法のことです。

- ・全面改修は、多くの課題を解消できる機会であり、抜本的な機能の向上が期待できます。
- ・公園ごとに機能を特化し、複数の公園で分担します。
- ・オープンハウスやアンケートなどにより合意形成を図ります。



全面改修した錦華公園

ソフト

運用

手法3 | 運用による質的向上

運用(ソフト)とは、公園でのボール遊びや夏季の花火利用、じゃぶじゃぶ池の開放など、活用方法の幅を広げる手法のことです。

- ・ソフト面での工夫により区民ニーズに寄り添います。
- ・子どもの遊びへのニーズに寄り添うため、花火の利用やボール遊びなどを実施します。



東郷元帥記念公園での花火

管理

手法2 | 部分改修による機能向上

管理(ハード)とは、公園施設の修繕・更新などをする手法のことです。

- ・利用者ニーズとスピード感とのバランスを考慮しながら、公園の機能を一部改修します。
- ・色彩やデザインに配慮した公園づくりを目指します。
- ・植栽については、環境美化と安全の視点を踏まえた管理を行います。



部分改修した外濠公園

手法4 | 管理による質的向上

管理(ソフト)とは、公園の清掃、花植えや水やりなどの日常的な維持管理手法のことです。

- ・公園の美観を整え、長く保ちます。
- ・動植物とのふれあいや清掃活動など、公園に関わるきっかけづくりを支援します。



東郷元帥記念公園の花壇

2. これまでの取組み

手法1

ハード

整備

(1)ハード面 近年の取組みを紹介します。

九段坂公園 2020年3月

該当する施策

拡充された機能

- 施策1-2
- 施策1-3
- 施策1-4
- 施策2-1
- 施策2-2
- 施策3-1
- 施策3-2
- 施策4-2



歴史資源機能



シンボル機能

- ・九段坂公園は、千鳥ヶ淵と武道館の間に位置し、靖国通りに隣接する細長い公園です。
- ・明治初期には高灯台が設置され、海も見えていたほど眺望の良い場所でした。
- ・東京タワー、東京スカイツリーなどを一堂に見ることができる都内でも屈指の眺望広場です。
- ・高灯台、品川弥二郎像、大山巖像などの歴史的建造物が鎮座しています。



ビフォー

「高低差を解消」「歴史資源である銅像を保持」
「ひと休み空間を創出」「堀側に面したバリアフリー園路」



アフター

東郷元帥記念公園 2022年4月下段広場開放



- ・多様な世代に親しまれている震災復興小公園です。
- ・法政大学景観研究室による調査で、多様に使いこなされていることが判明しました。
- ・公園全体の高低差が大きいという特徴をいかして、以下の3段で構成されます。
 - フラットな広場を有する下段広場
 - 憩いの場所である中段広場
 - 遊具を中心とした上段広場
- ・デザイン案は、地域住民を中心とした協議会により作成されました。
- ・公園づくりに参画できるイベントには、地域の方(442名)が参加しました。



ビフォー



アフター

開放的なウッドデッキ/リニューアルした下段広場

【2024年4月に再整備された際の デザインの要点】

- ・本郷台地の端部に位置する特徴ある地形や歴史の継承
- ・自然池の復元
- ・子どもの遊び場の充実
- ・見通しや安全性の確保

【全面改修内容】

- ・自然地形や大径木をいかした景観の継承
- ・日当たりの良い場所に遊具を配置
- ・インクルーシブ遊具の導入をはじめとした、運動・遊び場機能の拡充
- ・地面から水が噴射する水景施設を配置
- ・多世代で過ごせるゴロゴロ広場を配置
- ・比較的日陰となる南側に多目的広場を配置
- ・遊具エリアと多目的広場の緩やかな分節



ビフォー



アフター

地域の核となる公園として生まれ変わりました。

(2) ソフト面

手法4

ソフト

管理

アダプトシステム(公共施設の環境美化活動)・・・

- ・アダプトとは、英語で養子縁組のことを意味し、国や自治体が管理している道路や公園などの公共施設の一部を地域の方や企業、団体が引き受ける制度です。
- ・公共施設の花壇の管理や清掃などを通して、環境美化活動に貢献しています。
- ・千代田区では現在、道路14路線・公園13箇所アダプトシステムによる草花の管理などを行っています。
- ・今後もSNSやデジタル技術などを活用し、公園整備と一体的なマネジメントを目指していきます。



環境美化活動「花植え」(麴町こどもの広場)

コラム

住民参加による施設管理

- ・部分改修にあたっては、施設や遊具の更新だけでなく、柵の塗り替えなどによって景観改善に努めていきます。
- ・住民参加による柵のペンキ塗りについては、汎用性と実効性が高く、景観教育の側面もあることから、いくつかの市町村で実践されています。



目立っていた白い柵が景観に馴染んだものに

3. 今後の取組み

(1)ハード面 今後の公園づくりの具体的な取組みについて紹介します。

外濠公園 整備予定

手法1 ハード 整備 手法2 ハード 管理

該当する施策		拡充する機能	
施策1-2	施策1-3	運動・遊び場機能	
施策1-4	施策2-1	先駆的活用機能	
施策2-2	施策2-3	コミュニティ形成機能	
施策3-1	施策3-2	歴史資源機能	
施策3-4	施策4-1	シンボル機能	
施策4-4			

- ・外濠公園は、自然とのふれあいや憩い、江戸城外堀跡としての歴史的価値が体感でき、世代を問わず利用されています。
- ・区民体育大会など健康増進の機会を提供できる場です。
- ・総合グラウンドの人工芝化や東京通信病院前付近で築山を整備しました。
- ・遊具コーナーや遊歩道、土手、管理棟などのリニューアルを目指しています。



飯田橋こどもの広場 整備予定

手法1 ハード 整備



- ・本方針検討と連携して先行的な整備を行ないます。
- ・鉄道敷地に隣接し、道路から階段で登った位置にある特性を踏まえ、スケートパークやボルダリング施設などの導入を検討しています。



リニューアルイメージ図

和泉公園 整備予定

手法1 ハード 整備



- ・隣接する小学校等施設の建替えを機に公園整備に取り組みます。
- ・公園と施設の敷地交換による一体的整備を進めます。
- ・子どもの遊びや地域活動、災害時の拠点などニーズに寄り添った整備をします。
- ・公園と校庭の共用を視野に入れた整備、運用を検討します。



インクルーシブな公園づくり

手法1	ハード	整備	手法4	ソフト	管理
手法2		管理			

- ・インクルーシブ遊具の設置
- ・公園に入りやすいエントランスづくり
- ・園路、トイレなどのバリアフリー化
- ・わかりやすいサイン



障がいのある子どもない子ども一緒に遊べる遊具(世田谷区 砧公園)

機能特化型の整備

手法1	ハード	整備	手法3	ソフト	運用
手法2		管理			手法4

- ・スケートパーク、ボルダリング、ドッグラン、ボールあそび場など
テーマ性のある整備
- ・区民を交えたルールづくり
- ・区民のやりたいことを応援



スケートパーク(福山市 芦田川かわまち広場)

(2) ソフト面

手法3

ソフト

運用

ボール遊び

- ・公園や区施設を対象に、「子どもの遊び場事業」としてプレーリーダーを配置し、ボール遊びをサポートする取組みを行っています。
- ・令和6年度の夏休み期間に、ボール遊びができる公園を目指し、場所と時間を区切って運用しました。

令和6年度の
夏季ボール遊びの取組み

7/22～8/30のうち一部

実施場所 外濠総合グラウンド・小川広場



ボール遊び風景(外濠公園)

花火利用

- ・令和5年度に公園での花火利用を試験的に行いました。
- ・参加された方から、期間や場所の拡充を希望する声が多く寄せられました。
- ・区民のみなさんとルールづくりを行い、花火利用の拡充を目指します。

令和6年度の花火利用の取組み

7/20～9/8 土日
18:00～20:00

実施場所 東郷元帥記念公園・神田児童公園
麴町こどもの広場・富士見児童公園
西神田公園・芳林公園・和泉公園・錦華公園



花火利用風景(東郷元帥記念公園)

子どもの池 +(プラス)

- ・夏季には、水遊びができる「子どもの池」を開設しています。
- ・夏季は水遊び(水が噴射)、夏季以外は広場空間としての遊び場を導入します。

令和6年度の
子どもの池の取組み

7/12～9/8
午前10時～午後4時(休憩あり)

実施場所 東郷元帥記念公園・千鳥ヶ淵公園
神田児童公園・芳林公園・和泉公園



水が噴射するタイプ(錦華公園)

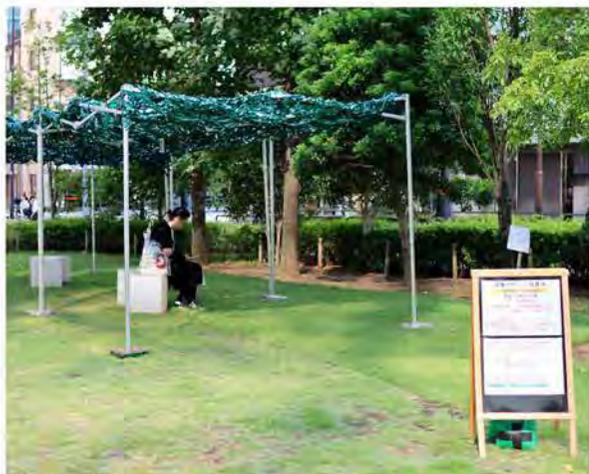
コラム

酷暑対策の取組み

「暑くても公園で遊びたい!」「公園に日除けがあれば、もっと使えるのに・・・」など、子ども達の声や公園利用者の声を受けて、暑い中でも公園に足を運ぶ機会を創出する取組みを実施しています。

① フラクタルテント(日除け)

令和6年8月、淡路公園にフラクタルテントを設置しました。このテントは、木の下にいるような安らぎと涼しさを与え、リラクゼーション効果も高いとされています。



淡路公園 フラクタルテント設置風景

② 水遊び場のテント設置

夏季に実施している「子どもの池」では、より快適に水遊びができるようにテントを設置しています。



神田児童公園 子どもの池のテント設置

③ ドライ型ミスト

公園6箇所に仮設式ドライ型ミストを設置しています。ドライ型ミストは、湿度を上げることなく涼しさを提供するシステムで、地球温暖化対策・ヒートアイランド対策に貢献します。



九段坂公園 ドライ型ミスト

4. 他事業・他区との連携

手法3

ソフト

運用

- ・本方針を実現するためには、公開空地や道路も含めて活用していくことが重要です。
- ・千代田区では、多くの開発が行われるため、公開空地の設置や大街区化に伴う道路の宅地化による広場の創出などが想定されます。
- ・ウォーカブルなまちづくりの視点を持って、憩える空間や遊べる空間づくりを推進します。
- ・中央区、港区、新宿区、文京区、台東区と隣接していることを踏まえた公園づくりが重要です。
- ・神社仏閣、学校、病院などと隣接する特性を踏まえた公園づくりを推進します。

千代田区内における道路活用の事例



子ども向けアスレチック遊び
(ちよチャレ道路で遊ぼう！)



黑板カーや地面にお絵描き
(ちよチャレ道路で遊ぼう！)

コラム ウォーカブルの取組み

千代田区では、道路や公園、広場、水辺などを快適で居心地の良い「まちのリビング」に変え、人と人とのリアルな交流を生む「ウォーカブルなまちづくり」を進めています。

地域の方々主導のもと、茗溪通りで歩行者天国を実施するなど、人が主役のまちを実現するための取組みを推進しています。

ウォーカブルなまちづくりは、ハード面だけでなくソフト面の取組みも合わせて行っていくものであり、人が主役のまちを実現するための先駆的な事業として注目されています。



道路空間を活用したイベントの実施風景 茗溪通り「くつろぎ」

開発事業・公開空地との連携

手法1

ハード

整備

手法3

ソフト

運用

- ・淡路公園は、隣接するワテラスの広場と一体的に整備されています。
- ・再開発事業の一環で、再整備されました。
- ・エリアマネジメント団体が、公園と広場を活用した地域活動を行っています。
- ・開発と連携した公園づくりが重要です。



広場と公園を一体的にイベント利用(ワテラスの広場と淡路公園)

民間ビルとの連携

- ・三井住友海上駿河台ビルには緑豊かな屋上庭園があります。
- ・緑あふれる屋上庭園は、貴重な憩いの場になっています。
- ・民間ビルの屋上緑化、壁面緑化と連携した公園づくりを目指します。



誰でも自由に見学できる屋上庭園(三井住友海上駿河台ビル3階)

道路・歩道空間の公園的利用

手法3 ソフト 運用

- ・「大手町川端緑道」は、2014年に日本橋川沿いに整備された全長約780mの歩行者専用道路です。
- ・オフィス街に立地している緑豊かな親水空間を形成した通りは、オフィスワーカーのランチ休憩や、地域の方の散歩道などとして利用されています。
- ・道路の使用には様々な制限がありますが、活用の幅を広げる取組みについても検討していきます。

BATON PARK —KAWABATA-RYOKUDO— の実施

【期間】2023年10月23日～11月11日 11:00～20:00 ほか

【場所】大手町川端緑道および周辺公開空地

【主催】一般社団法人大手町歩専道マネジメント

【協賛】NTT都市開発株式会社、三菱地所株式会社

- ・道路の空間活用の検証とウォークアブルな空間の提案を旨とした社会実験
- ・川沿いの立地をいかした河床の設置や、子どもが楽しめる遊具の設置、芝生広場などがエリアに分かれて展開



道に休憩場所出現（大手町川端緑道）



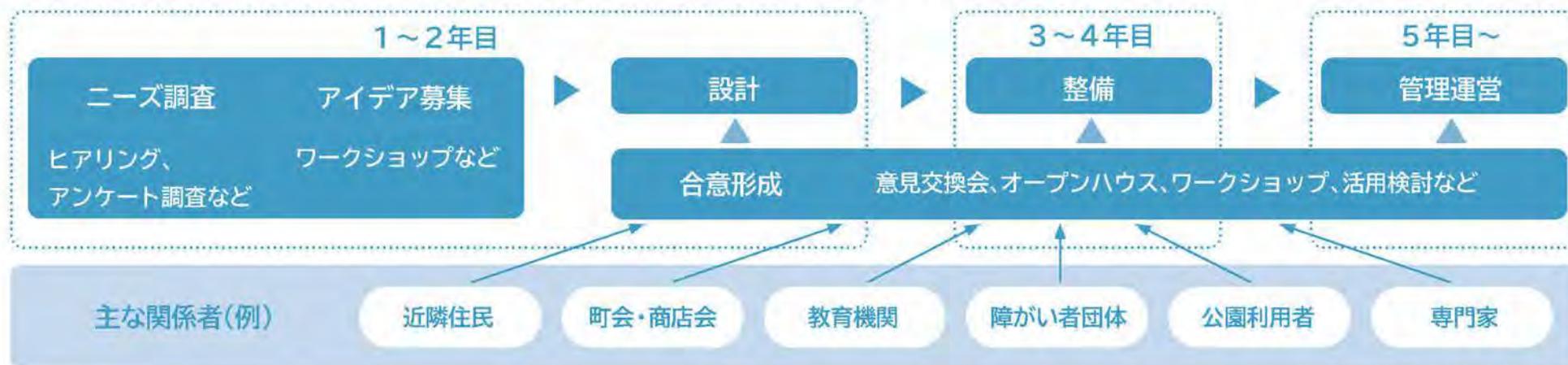
道でくつろげる（大手町川端緑道周辺）

5. プロセスと進行管理

(1) 公園づくりの標準プロセス

公園の設計や整備に関する標準的なプロセスと期間をロードマップとして示します。

また、公園の全面改修や区民などの利用を制限する場合は、多様な関係者と協働していきます。



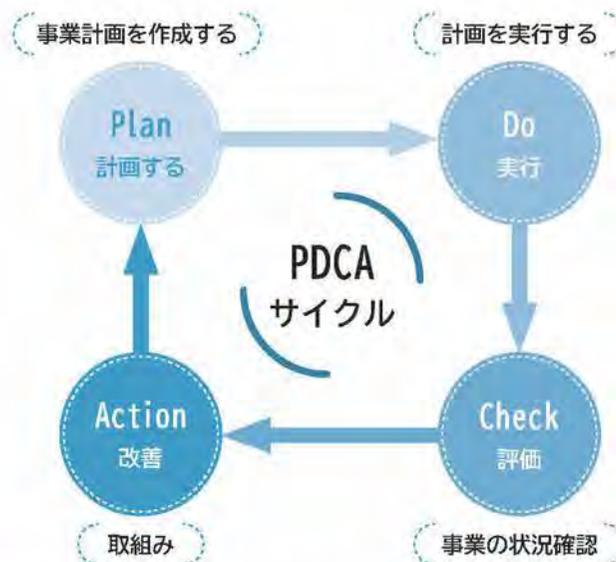
公園づくりロードマップ

(2) 進行管理

PDCAサイクルを意識し、事業計画(Plan)、実行(Do)、事業の状況確認 (Check)、次の取り組みへの反映(Action)により、本方針の進行管理を行います。社会経済状況の変化や公園利用者のニーズの多様化などを注視しながら、的確かつ柔軟に進行管理する必要があります。そのため、定期的に取り組状況を把握する必要があります。

具体的には、5年ごとに施策の進度や目標値の達成状況等を評価します。必要に応じて、計画に位置付けられる施策の見直しを図り、計画の中間期にあたる概ね10年後には中間見直しを検討、概ね20年後には成果を評価および改定を検討します。なお、見直しにあたっては、公園の利用実態や区民意見を聴取しながら、進めていきます。

本方針は概ね20年を目安としたものですが、「できることからやる」というスピード感を意識して機能の強化を図ります。



6. 公園施策の深化に向けて

本方針のさらなる深化に向け、定量的なデータの収集分析や社会実験の実施など、区民ニーズに寄り添った施策展開を目指します。

定量的データの収集・分析

人・まち・社会の変化に関する最新状況の把握に努め、エビデンスに基づく施策立案(EBPM)を進めます。

- ・定期的な緑被状況の調査とGIS(地理情報システム)などを活用した詳細分析
- ・エリアマネジメント団体や大学などが収集したデータの活用
- ・デジタル技術を活用した情報発信

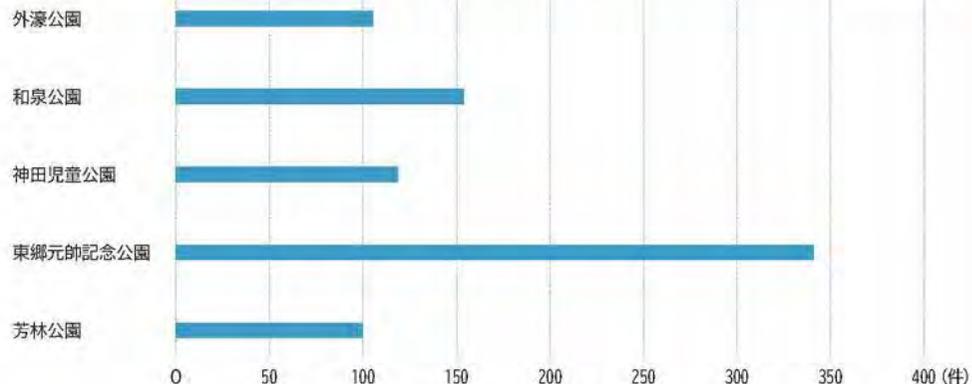
社会実験の展開

新たな取り組みを行う場合、社会実験の実施が有効です。
その結果を踏まえ、妥当性や有効性の検証を行います。
また、地元で活動するNPOと連携するなど様々な手法を検討し、利用者ニーズに寄り添う公園づくりを目指します。

制度や体制の柔軟な見直し

新たな制度や体制の創設が必要な場合には、区民ニーズに寄り添い検討します。

よく行く公園の名前 ※上位5公園の結果のみ記載



定量的データの例



社会実験の例

コラム 変化する区民ニーズを捉える

令和6年10月6日に外濠公園総合グラウンドで開催された第62回千代田区民体育大会イベントブースにて、区民の方々に直接ご意見を伺いました。

【主な内容】

①千代田区公園づくり基本方針(素案)の紹介

②ニーズ調査

回答者数

子ども(幼児~中高生)279名 大人173名

「千代田区の公園でしたいこと」

子ども 1位 水遊び

大人 1位 ボール遊び

「千代田区の公園に欲しい遊具」

子ども 1位 スライダー遊具

大人 1位 ふわふわドーム

③遊具体験(3種類)



ニーズ調査(パネルにシールを貼付)



遊具体験コーナー

コラム 変化する区民ニーズを捉える

「公園でしたいこと」アンケート結果パネル



アンケートはブース来場者の方を対象に、「一人につき4票」ご投票いただきました。

総投票数 子ども:1,116票 大人:692票

「欲しい遊具」アンケート結果パネル

登山系遊具



写真提供 株式会社ジャクエツ

●子ども 33名 ●大人 29名

ふわふわドーム



写真提供 内田工業株式会社

●子ども 80名 ●大人 76名

スライダー遊具



●子ども 140名 ●大人 48名

複合遊具



写真提供 株式会社コトブキ

●子ども 82名 ●大人 58名

回転系遊具



写真提供 タカオ株式会社

●子ども 34名 ●大人 10名

キネティックシーソー



写真提供 タカオ株式会社

●子ども 52名 ●大人 20名

ミュージックボール



写真提供 タカオ株式会社

●子ども 21名 ●大人 8名

ドラムフラワー



写真提供 タカオ株式会社

●子ども 4名 ●大人 4名

おはなしフラワー



●子ども 35名 ●大人 2名

大型スプリング遊具 トリオビーク



写真提供 タカオ株式会社

●子ども 72名 ●大人 17名

ベッドジャンパー



写真提供 株式会社コトブキ

●子ども 20名 ●大人 10名

テモアシモ



写真提供 快工房株式会社

●子ども 20名 ●大人 5名

【用語解説】

	用語	解説
あ行	アクティビティ	特定の目的や楽しみを追求するために行う行動や事柄を指す言葉。スポーツ、アウトドア、アート、学習、ボランティアなどのほか、イベントで提供される体験型のプログラムもアクティビティとして扱われる。
	アダプトシステム	アダプトとは、英語で養子縁組のことを意味し、国や自治体が管理している道路や公園等の公共施設の一部を地域の方や企業、団体が引き受け、公共施設や花壇の管理、清掃等を通して、環境美化活動をする制度。
	インフラ(インフラストラクチャー)	道路や通信、各種公共施設といった社会や産業の基盤となる施設もしくは設備を意味する。
	EBPM	EBPM(エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング)とは、経験や直感ではなく、データや合理的の根拠をもとに政策を立案すること。
	インクルーシブ	年齢や性別、国籍、心身の障がいの有無に関係なく共生すること。
	ウォークアブル	街路空間を車中心から”人中心”の空間へと再構築し、沿道と路上を一体的に使う、人々が集い憩い多様な活動を繰り広げられる場へとし、居心地がよく歩きたくなるまちを作っていく取組み。
	エリアマネジメント団体	地域の住民・事業主・地権者等が主体となって、地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させる活動を行う団体のこと。
	NPO	「Non-Profit Organization」又は「Not-for-Profit Organization」の略称で、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称。
	オープンスペース	大規模なビルやマンションに設けられる空地であって、歩行者用通路や植栽などを整備した空間。広い意味では、都市における公園・緑地・街路・河川敷・民有地の空地部分などの建築物に覆われていない空間を総称して「オープンスペース」と呼ぶ場合がある。
	オープンハウス	パネルの展示やリーフレットなど資料の配布により、事業や進め方に関する情報を提供する場で、行政が内部(インハウス)で検討している内容を一時的に公開(オープン)にすることからオープンハウスと呼ばれる。
か行	QOL (Quality Of Life)	日常生活の充実度や満足度による生活の質のこと。千代田区都市計画マスタープラン(令和3年5月改定)では、人口回復のための住宅床・戸数などの量的確保を重視した開発誘導の考え方から転換し、住み、働き、活動する人々を主役に、都心生活の質「QOL(Quality Of Life)」を豊かにしていくことが重要としている。

	用語	解説	
	グリーンインフラ	自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方。米国で発案された社会資本整備手法で、自然環境が有する多様な機能をインフラ整備に活用するという考え方を基本としており、近年欧米を中心に取組みが進められている。	
	クールスポット	まちなかの涼み処として、夏の暑さを忘れられるような、身近で涼しく(クール)過ごせる空間・場所(スポット)のこと。	
	健康寿命	WHO(世界保健機関)が定義し、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」のこと。	
	健康遊具	ストレッチや軽い運動など、体を鍛えることや健康づくりを目的とした大人用の遊具のこと。	
	子どもの池	千代田区内の公園5箇所に「こどもの池」として開設し、池の深さは30cm程度あり、監視員が常駐しているため、小さな子どもも安心して遊べる施設。	
	公園設置管理制度(Park-PFI)	飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公募対象公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等の一般の公園利用者が利用できる特定公園施設の整備・改修等を一体的に行う者を、公募により選定する制度。	
	公開空地	総合設計制度に基づいて、ビルやマンションの敷地に設けられた一般公衆が自由に出入りできる空間のこと。	
	コミュニティ	共通の関心事や課題を軸に自然発生的に集まった人々の集まりのこと。	
	さ行	シェルター	外からの侵害を防ぎ安全を保つ機能を備え、危険や攻撃から保護するための施設だけでなく、暑熱、風雨などを避けるための場所や設備。
		震災復興小公園	大正12年(1923年)に発生した関東大震災による被害からの復興のため、東京市が計画した震災復興都市計画事業により、焼失区域内の小学校に隣接して整備されたもの。
親水空間		都市部や人口密集地域の中や近辺にある、緑地や水辺を指す。	
指定管理者		地方公共団体が、指定する法人やその他の団体に、地方公共団体に代わって公の施設の管理を代行させること。	
	じゃがじゃが池	深さ10~30cmほどで、大きな水溜まりのような公園内にある浅い水遊びができる場所のこと。	

	用語	解説
	GIS(地理情報システム)	GIS(Geographic Information System)は、地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ(空間データ)を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術。
	スツール	背もたれと肘掛けがない簡易的な椅子のこと。
	生物多様性	様々な生き物が、異なる環境で自分たちの生きる場所を見つけ、互いに違いを活かしながら、つながり調和していることをいう。
た行	大街区化	複数の街区に細分化された土地を集約・整形して、大規模な街区を創出することにより敷地の一体的利用と公共施設の再編を図るもの。
	地域貢献活動	ボランティア活動や地域イベントの開催、地元経済の支援、環境保全活動など、個人や企業が地域社会の発展や活性化に貢献する様々な活動を指す。
	昼間人口	就業者または通学者が従業・通学している従業地・通学地による人口であり、従業地・通学地集計の結果を用いて算出された人口のこと。
	帝都復興事業	大正12(1923)年9月1日に発生した関東大震災の翌日に発足した内閣総理大臣直属の機関として設立された「帝都復興院」による復興事業のこと。復興計画に基づき、主に焼失区域において、街路、橋梁、河川、運河、公園及び土地区画整理などの事業が行われた。
	低炭素社会	気候に悪影響を及ぼさない水準で、大気中温室効果ガス濃度を安定化させると同時に、生活の豊かさを実感できる社会(21世紀環境立国戦略(2007年閣議決定)より)をいう。
	デジタル技術	コンピュータやインターネットを活用し、情報の数値化や高速処理・伝送することができる技術。
	ドライ型ミスト	ノズルから噴霧される、微細な霧状水滴の気化熱を利用した外気冷却システムであり、平均で2~3度程度の気温低減効果がある。
	都市公園・児童遊園・広場	都市公園は都市公園法に基づき設置される公園で千代田区都市公園条例に基づいて管理される施設、児童遊園は地方自治法及び千代田区立児童遊園条例に基づいて設置及び管理される施設のこと。また、広場は千代田区立広場の設置及び管理に関する要綱に基づいて設置及び管理される施設のこと。
は行	バリアフリー	多様な人が社会に参加する上での障壁(バリア)をなくすこと。

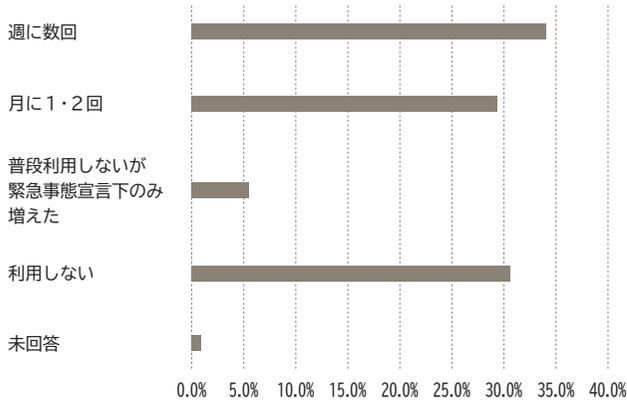
	用語	解説
	ヒートアイランド現象	都市部にできる局地的な高温域のこと。郊外に比べ都心部ほど気温が高く、等温線が島のような形になることからこの名前がついている。
	ビオトープ	ドイツ語のBIO(ビオ:生き物)とTOP(トープ:場所)の合成語で、「生き物の暮らす場所」という意味。
	プレーパーク	木登りや泥んこ遊びなど、子ども達が自分の責任で自由に遊ぶことを原則として設置される広場のこと。
	プレーリーダー	子どもが自ら遊び育つ環境づくりの知識と技能を備え、多様な人が参画できる子どもを中心とした遊び場をつくる人のこと。
	複合遊具	いくつもの遊具が複合して、ひとつの巨大な遊具となっているもの。
	フラクタルテント	自然の幾何学に基づいた木の葉の形状を模倣したテントであり、部分的に日差しを遮ることにより、適度な光と影を作り出し、熱を逃がして温度の上昇を抑えることができる。
	仏閣	仏様を祀っている建物で、寺を意味する。
ま行	マルシェ	フランス語で「市場」を意味する言葉であり、個人単位が人通りの多い場所に集まって出店した集合体を指す。
	民間活力の導入	民間事業者の創意工夫などを最大限活用し、公共サービスの向上、地域経済の活性化及び財政負担の軽減などを目的に、民間事業者などから事業提案を募集し、予算措置等の条件が整った場合に民間活力を導入して事業化する制度。
	無作為抽出	母集団の一部のみを調査する標本調査として、無作為抽出と有意抽出の2種類があり、無作為抽出とは、ある集団から標本(サンプル)を無作為(ランダム)に抽出(サンプリング)する行為のこと。
わ行	ワークショップ	参加者個々が考え、お互い協力し合い、与えられたテーマを元に展開するスタイルの会議や共同作業のこと。

● アンケート調査結果（一部抜粋）

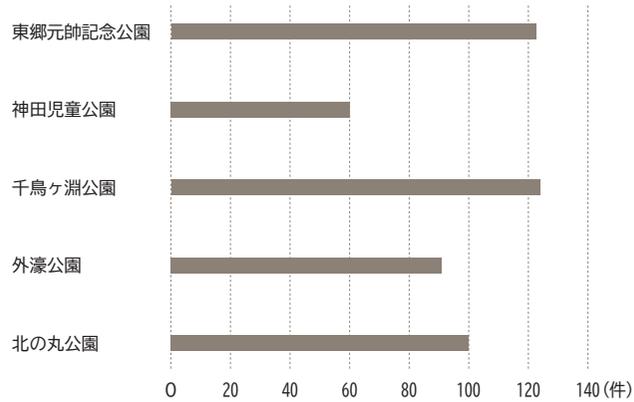
本編で取り上げた内容に関連するアンケート調査結果を掲載しています。

区民へのアンケート

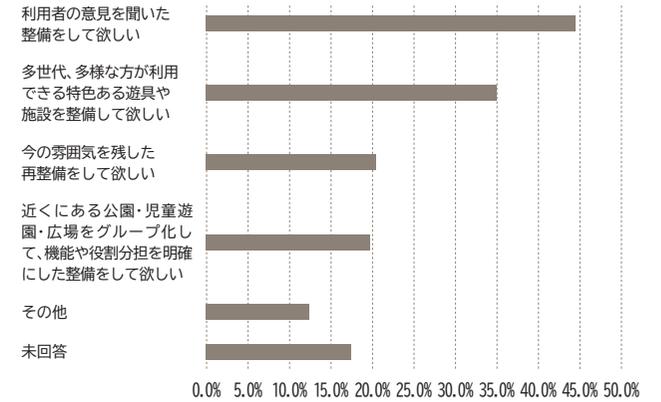
普段の公園などの利用頻度



千代田区内で利用頻度の多い公園など ※上位5公園の結果のみ記載

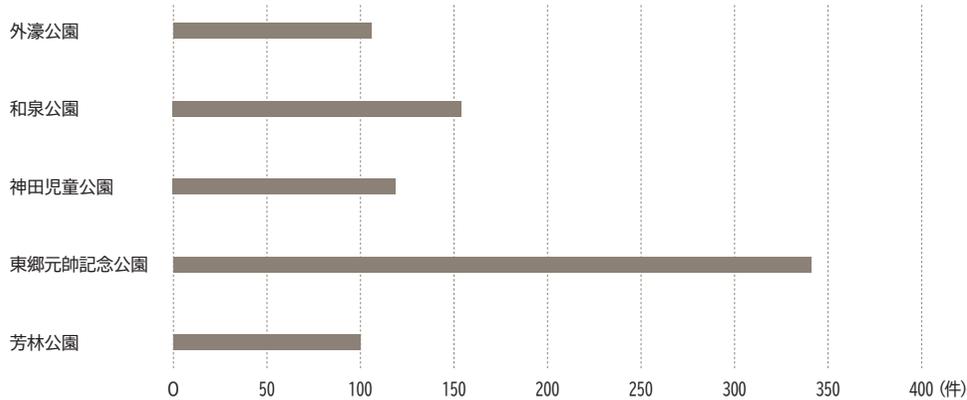


身近な公園などを再整備する場合に考慮して欲しい事

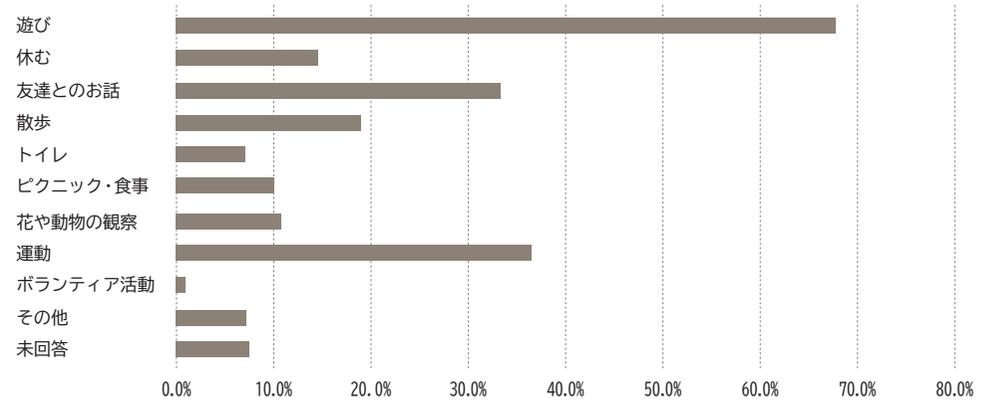


子どもへのアンケート

よく行く公園の名前 ※上位5公園の結果のみ記載

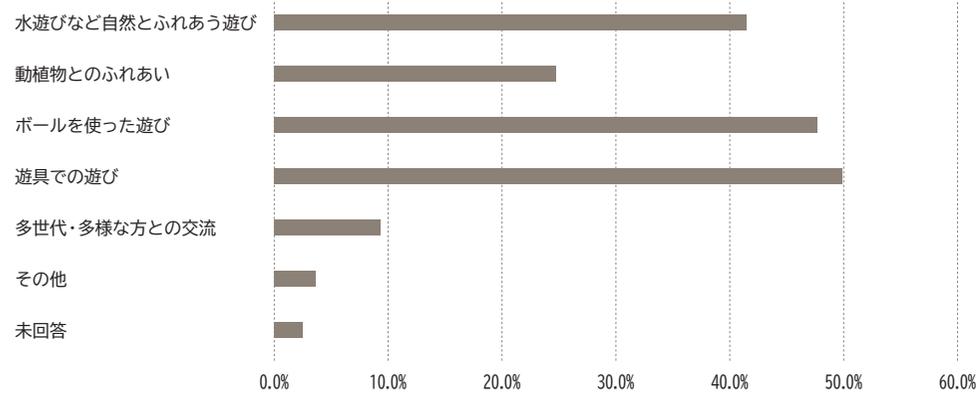


公園の利用目的

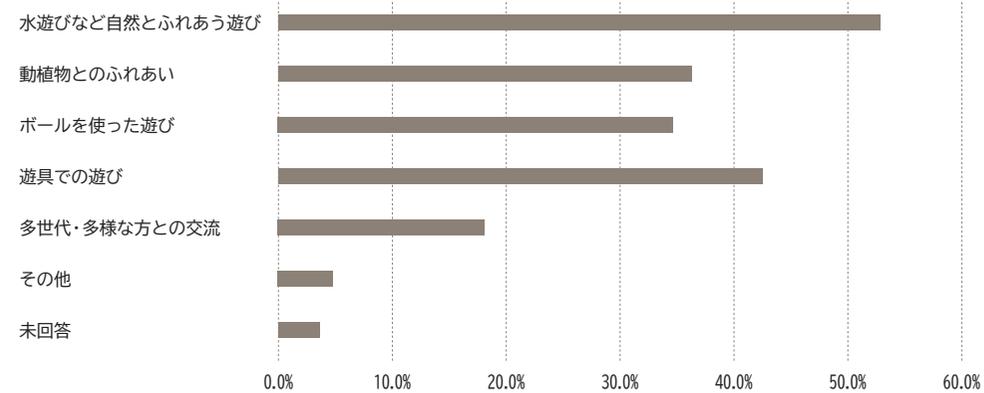


保護者・教職員へのアンケート

子どもにどんな遊びや学びをして欲しいか(保護者)

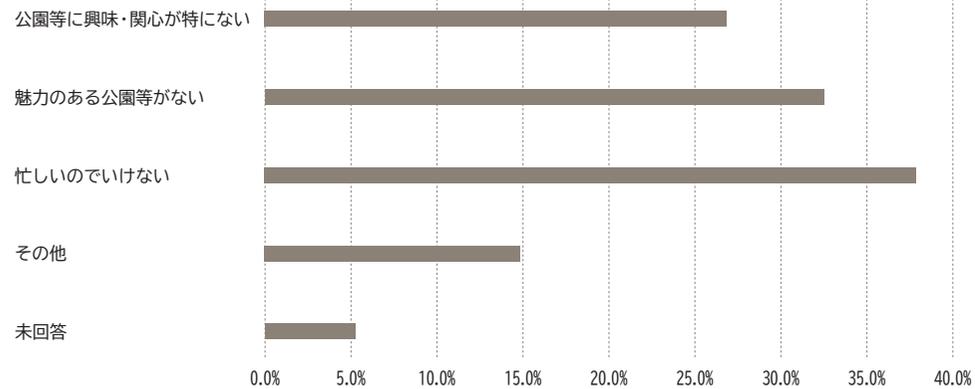


子どもにどんな遊びや学びをして欲しいか(教職員)



「区立公園を利用しない人」向けのWEBアンケート

公園を利用しない理由





千代田区
Chiyoda City

千代田区公園づくり基本方針

発行 令和7年3月

編集・発行

千代田区環境まちづくり部道路公園課

〒102-8688 東京都千代田区九段南1-2-1

Tel:03-5211-4240